

第1学年 算数科学習指導案

児童
指導者

1 単元名 ひきざん（東京書籍 1年② p.76～85）

2 単元について

本単元で育てたい 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力 ・計算の仕方や操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度 	
学習指導要領の 位置付け	知識及び技能	A (1) ア (エ) (2) ア (ア) (イ) (ウ)
	思考力, 判断力, 表現力等	A (2) イ (ア)

単元構想

【教材について】

- ・本単元では、11～18までの2位数から1位数を引いて繰り下がりのある減法について学習する。
- ・既習（「いくつといくつ」）を生かし、半具体物を用いた活動を通して繰り下がりのある減法計算の仕方を考える。
- ・数の見方や計算の意味、未習の計算の見付け方などを活用し、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を既習の計算に帰着して考える。

【児童について】

- ・今までに、10の分解・合成について、減法が用いられる場合やその意味、被減数が10以内の減法計算を学習してきた。
- ・これまでの学習を通して、既習の数の見方を活用し、未習の計算の仕方を考えるということが身に付いてきている。

【指導にあたって】

- ・本単元では、「10はいくつといくつという数の見方に着目し、計算の仕方を考える」という見方・考え方を働かせ、様々な数学的活動を通して、資質・能力を育んでいくことを目指す。
- ・計算の考え方と手順の定着を目指し、ブロックを用いた操作活動と計算の仕方を関連付けて言葉で説明できるようにし、繰り返し練習させる。
- ・「10といくつ」という数の見方に着目し、問題によって減加法と減々法のどちらの方法が適しているのかを考え、自分で選択する力を付けていきたい。
- ・ペアでの意見交流によって自分の考えを相手に伝える場を設け、自分と友達考えの似ているところや違うところを見付けるという視点を与えることで、比較しながら聞くことができるようにする。対話を通して伝え合うことの楽しさを感じ取らせることにより、発表に対して自信をもたせ、学習意欲の向上にもつなげたい。

3 単元目標

- (1) 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできていることを理解し、その計算が確実にできる。 【知識及び技能】
- (2) 数の構成に着目し、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- (3) 11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。 【学びに向かう力, 人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。</p> <p>②11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算が確実にできる。</p>	<p>①繰り下がりのある減法の計算の仕方を、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。</p> <p>②日常生活の問題を、減法を活用して解決している。</p> <p>③繰り下がりのある減法計算について、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。</p>	<p>①繰り下がりのある減法の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。</p> <p>②減法の場面を身の回りから見つけ、減法を用いようとしている。</p> <p>③学習したことをもとに、繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとしている。</p>

5 単元指導計画（11時間）

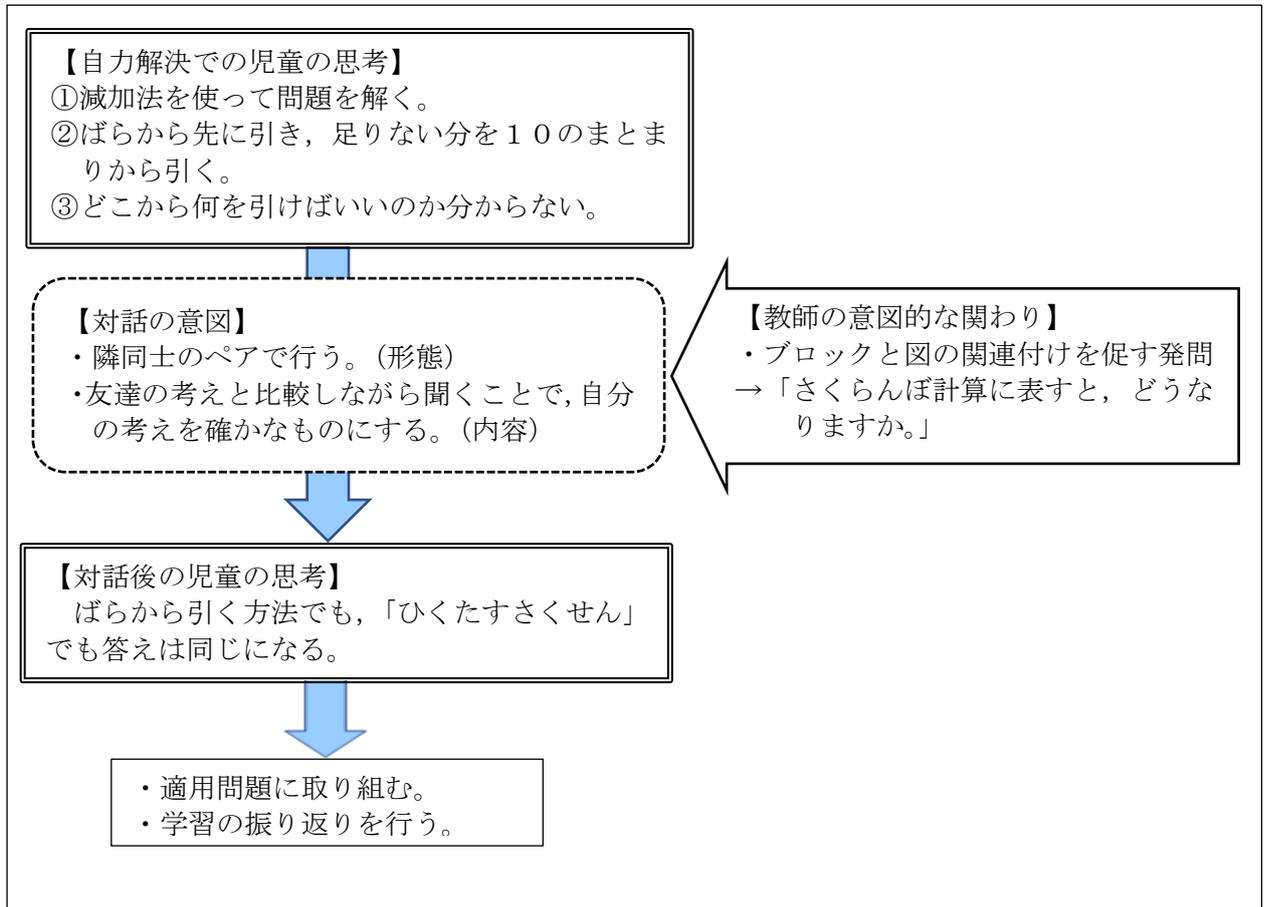
時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
1	11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。	①「10といくつ」という数の見方に着目し、13－9の計算の仕方(減加法)を考える。			・態②③ 行動観察 ノート分析
2		①減数が9の場合の計算の仕方(減加法)を考える。	・知② ノート分析	・思①③ 行動観察 ノート分析	
3	前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。	①「10といくつ」という数の見方に着目し、減数が8や7の場合の計算の仕方(減加法)を考える。		・思①③ 行動観察 ノート分析	
4		①減数が9～5の場合の計算練習、文章題の解決に取り組む。	・知② ノート分析	○思③ 行動観察 ノート分析	
5 本時	11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	①「10といくつ」という数の見方に着目し、12－3の計算の仕方(減々法)を考える。		○思①③ 行動観察 ノート分析	
6		①11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の練習、文章題の解決に取り組む。	・知② ノート分析		
7 ～ 9	減法の計算能力を伸ばす。	①計算カードを使った、11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算の習熟を図る。	・知② ノート分析	・思② 行動観察 ノート分析	
10 ・ 11	学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことよさを感じ価値付ける。	①学習内容の習熟・定着を図る。	○知①② ペーパー テスト	○思①② ペーパー テスト	○態①②③ 行動観察

6 本時の指導（5／11）

（1）具体の目標

「10といくつ」という数の見方に着目して、既習の10の分解に帰着して考えながら、ブロック操作と言葉を関連付けて説明する活動を通して、減数を分解して計算する方法の理解を深めることができる。

（2）研究との関わり



（3）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入 10分	1 問題を読み、本時の題意を捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (も)おかしが 12こ あります。 [3こ] たべると のこりは なんこですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・立式する。 ・式を見て、前時までの引き算と違う点を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がイメージしやすいようにケーキ絵図を提示する。 ・引く数の3に着目できるように問題提示を工夫する。 ・前時までの学習を想起させ、本時は減数と被減数の一の位の数の差が小さいことに気付かせる。
	2 課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (か)12-3のようないさんのしかたをかながえよう。 </div>	
	3 見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・引く数が大きいときは10のまとまりから引いたことを振り返る。 ・ばらから引く方法はできないかを考える。 	

展開 20分	<p>4 自力解決をする。 ・ブロックの操作をしながら答えを考える。終わった児童は、さくらんぼ計算に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自力解決での児童の思考】</p> <p>①減加法を使って問題を解く。 ②ばらから先に引き、足りない分を10のまとまりから引く。 ③どこから何を引けばいいのか分からない。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>5 集団解決をする。</p> <p>(1) グループ ・ペアで、自分の考えをブロックを使って説明し合う。</p> <p>(2) 全体 ・減加法と減々法をブロック操作で確認する。 ・二つの方法の共通点・相異点を見付ける。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【対話後の児童の思考】</p> <p>ばらから引く方法でも、ひくたすさくせんでも答えは同じになる。</p> </div> <p>(3) 問題の答えを確かめ、まとめにつなげる。 ・減々法をさくらんぼ計算で表す方法を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>ブロックと図の関連付けを促す発問 【教師の意図的な関わり】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・隣同士で自分のブロックの動かし方を説明し合い、それぞれの考えの共通点や相違点を見付けられるようにする。 ・ブロック操作とさくらんぼ計算を関連付けながら、引く数を分ける方法があることを理解できるようにする。
	終末 15分	<p>6 学習をまとめる。 ・新しい作戦名を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>③ばらから さきにひいても けいさんできる。 →ひくひくさくせん</p> </div> <p>7 適用問題に取り組む。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p>

(4) 板書計画

1/1 (か)

① おかしが12こあります。
3こたべると、のこりはなんこですか？

ひくたすさくせん

ブロック

さくらんぼ計算

12-3=9

② 12-3のようないけいさんのしかたをかんがえよう。

見直し・ひくたすさくせん
→10のまとまりからひく
・ばらからひく

あたらしいいけいさんかた

ブロック

さくらんぼ計算

12-3=9

③ ばらから さきにひいても けいさんできる。 ひくひくさくせん

れ しき 13-4

ブロック

さくらんぼ計算

13-4=9

ふ